

平成 21 年 5 月 7 日現在

研究種目：特定領域研究
研究期間：2006～2010
課題番号：18073005
研究課題名（和文） 感染現象のマトリックス

研究課題名（英文） Matrix of Infection Phenomena

研究代表者

野本 明男 (NOMOTO AKIO)
東京大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：70112670

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：基礎医学・ウイルス学

キーワード：感染症、ウイルス、細菌、寄生虫、免疫学、微生物

1. 研究計画の概要

総括班においては、実施委員会および評価委員会を設け、領域研究全体の進展を図る。また研究成果の公表を積極的に行い、国際交流による情報交換を促す。実施委員会は、領域代表者と各研究項目の代表者よりなる。領域研究全体の企画調整、推進方策の検討および決定を行う。研究成果の公表および国際交流を目的とし、国内外の研究者によるシンポジウムなども企画する。縦系的、横系の研究組織から、新たな感染現象の研究の切り口を探るための議論を行い、領域研究を有機的にまとめる。評価委員会は、領域代表者と外部の有識者を加えた委員会とする。領域全体の評価と助言を行う。

2. 研究の進捗状況

本領域研究は、各病原体の感染機構（縦系の研究）を分子レベルで明らかにし、これら病原体に対し応答する宿主分子群の発見を通し、その増殖・生活環、病原性発現、宿主応答の分子機構（横系の研究）を明らかにする。また、このようなスタイルで研究を進めることにより、この分野の人材を育成するシステムを構築する。この目的のため、全研究項目について9の研究会を開催した。さらに横系的研究会のテーマを募集し、各病原体横断的な6の研究会を開催し、マトリックス的な組織編成が進展した。ウイルス、細菌、真菌、および寄生虫の感染現象を用談的に話し合う研究会により、感染現象の普遍性と多様性が明らかとなりつつある。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。多くの研究会の開催とそこでの議論により、初期の目標である感染現象の研究における横系的な新しい切り口が幾つか示された。これらの研究グループは、今後、新学術領域研究申請を行うはずとなっている。

4. 今後の研究の推進方策

平成22年度までは、現在の方針を変えず、横系的な新たな研究の切り口を探りながら、幾つかの研究グループを作り上げ、次代の感染研究につなげたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔その他〕

領域ホームページ

<http://kansen-matrix.jp/index.html>